

Think
Sense
Study
Action

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」
「学んだこと」「行動したこと」
を皆様にお伝えする紙上ブログです。

内田直之のオフィシャルサイトが新しくなりました!
ソーシャルネットワークや動画を使って、さらに情報発信を
充実させていきたいと思ひます。ぜひ新しいホームページ
にアクセスして下さい!

uchida
naoyuki
.com

自民党



内田直之が考えたこと

地方分権の時代を迎え区議会議員にも、高度な知識と見識、そして政策立案能力や問題解決能力が求められています。その要求に応えるべく、明治大学公共政策大学院にて、都市政策や都市防災、環境政策、地方自治などを学んで参りました。皆様のご理解のお陰で、とても充実した2年間を過ごすことができました。大学院は無事修了しましたが、引き続き「都市政策フォーラム」や「都政研究会」に所属し、継続して政策に関する調査・研究を続けています。そこで今回は、修士論文の研究テーマでもある「神田の伝統・文化からまちの再生を考える」を少しだけ紹介したいと思います。

神田地域の課題と可能性

日本の都市は、少子高齢化、環境・エネルギー、都市災害など多くの課題を抱えており、東京も例外ではありません。この研究は、国際都市間競争に東京が勝ち抜く為に、都心に位置する神田地域が果たすべき役割とは何か、歴史や伝統・文化を継承した独自のまちづくりとは何かを探り、環境と共生する21世紀に相応しい持続可能なまちへどのように再生すべきかを提言したものです。

江戸幕府開府以来400年にわたり日本の政治、経済、文化の中心として栄える千代田区は、大きく3つの地域で構成されています。日本を代表するビジネス街である大丸有地域、静かで文化的な高級住宅地の麹町地域、そして、江戸時代より職人や町人のまちとして発展してきた神田地域です。目覚ましい都市機能の更新が進む大丸有地域とは対照的に、神田地域は明確なコンセプトが見つけられず衰退しているのではと危惧しています。老朽化した中小ビルには空室が目立ち、裏通りには老朽危険家屋やコインパーキングが点在しています。一方、この神田地域は都心に位置し、日本を代表するビジネス街に隣接する恵まれた立地や、神田川や日本橋川、皇居のお濠などの豊かな水辺を有しています。なにより江戸時代より発展した古町であり、歴

史や伝統・文化、そして自由な気質と地域コミュニティが脈々と継承されています。

歴史や伝統・文化から学ぶ

「小さな漁村だった江戸湊が徳川家康の入府により世界有数な大都市になった」との歴史認識が一般的ですが、実は江戸は鎌倉時代より関東地方の流通の要所として繁栄していました。また、漁民や半農半漁の民が中心だった地域の人々は、血縁を大切にする自由な気質であったと推測され、「江戸っ子は宵越しの銭は持たぬ」と気前の良い職人気質を表す言葉のルーツは漁民にあったと思われます。江戸時代初期につくられた神田は、関東大震災や戦後の復興事業、東京オリンピックでの整備などの都市改造をたどり現在に至っています。

また、神田明神と氏子、更にはそれらを支えてきた町会に焦点を当ててみると、江戸時代以降記録が残っている神田祭の神輿の行列立てにより、当時の氏子域が明確となり、神田地域を想定することも出来ました。神田とは何処なのか?と言う永遠のテーマについては、別途お話をさせて頂きたいと思ひます。

神田におけるまちづくりへの提言

この神田地域が目指すべきまちづくりとは、歴史と伝統・文化を継承した、活気溢れるま

ちへの再生だと考えます。具体的な方策として7つの提言を行いました。①人にやさしい道路政策、②高度な都市防災政策、③親水性のある水辺政策、④持続可能な環境・エネルギー政策、⑤伝統の継承と文化の発信、⑥外国人向け居住区の整備、⑦地域コミュニティの再生です。裏通りには人々が安全に歩ける通りや路地が整備され、美しさを取り戻した親水性の高い水辺空間にはホテルが飛び交い、再生された河岸は人々の交流の拠点となります。電線や首都高速高架橋が撤去されれば、勇壮で豪華絢爛な山車が神田祭に復活できるでしょう。都心の立地を活かした質の高い世界水準の居住環境と活気溢れる商店やアート拠点が混在する、持続可能な職住共存のまちへと生まれ変わります。

これまでの行政主導による施設や土地利用など経済力の拡大をめざした都市施設整備ではなく、これからは住民主導による生活の質の向上をめざした都市環境整備が行われ、個性的なコミュニティが育まれる地域づくりへと変わって行くと思います。まちづくりとは行政が押しつけるものではなく、企業利益を追求するものでもなく、そこに暮らし、働き、学ぶ地域住民が主体的に創り上げるものであると確信しています。今後は、これらの提言を私の政策公約とし、次には麹町地域の調査にも着手し、千代田区の都市政策を提言して行きたいと思ひます。

Sense

世界の街歩き

チェスキー・クルムロフ (チェコ共和国)

人口1.4万人
面積22.2km²
共和制

今年の夏は、久しぶりにひとりで旅にでました。ミュンヘン経由でプラハに到着、そこから長距離バスに揺られ3時間で、目的の街チェスキー・クルムロフに到着しました。南ボヘミア州

にある小さなこの街は「世界で最も美しい街」と称され、世界遺産の街としても有名です。

13世紀後半にヴァルタヴァ川沿いに街の建設が始まり、16世紀にはルネサンス様式の建築が多く建築され、色鮮やかで華麗な現在の姿がほぼ出来上がったそうです。その後、19世紀の産業革命に取り残され緩やかな衰退へと向かい、第2次世界戦後にはドイツ系住民が追放されたことにより、街は荒廃して行きました。皮肉にも、これらの歴史

のおかげで、ルネサンス都市としての風景が現代まで残される事となりました。

この小さな街には、石畳の細い道沿いに美しい小さな家々が建ち並び、川の向こうには巨大なクルムロフ城が聳え立っています。中世にタイムスリップしたかのような美しい街が持つ、複雑な歴史をもう一度調べて、再度訪問したいと思ひました。



Action

内田直之が行動したこと

100歳の祖母と靖国神社を参拝!

熊本から上京した祖母と一緒に、靖国神社を参拝しました。8月15日に行われた全国戦没者追悼式では、熊本県遺族会を代表して献花の大役も務め、熊本日日新聞にも大きく掲載されました。100歳となった今も速足で歩きまわり、好物はステーキ!と食欲も旺盛です。まだまだ元気で活躍してくれそうです。



Study

内田直之が学んだこと

厳戒態勢の北京市を視察しました!



明治大学公共政策大学院「都市政策フォーラム」にて、北京市を視察しました。この「都市政策フォーラム」とは、大学院で学ぶ現役と修了生との政策研磨を目的とした組織です。

北京市の千代田区とも言える西城区にて副区長と都市計画について、北京市環境保護局ではPM2.5対策、北京市地下鉄運営会社では大都市における交通政策について、意見交換を行いました。他にも北京都市計画展や北京大気保全監視センター、北京市経済技術開発区(BDA)なども視察致しました。また、抗日戦争記念館は、事実とは疑わしき内容も数多く、愛国教育(反日教育)が日中友好を妨げる大きな要因であることを改めて感じました。

北京市中心部では、テロや暴動に対する警戒レベル1級(最高)が適応されており、厳戒態勢となっていました。もちろんフェイスブックやツイッターへもアクセスできません。日中関係も大気汚染も最悪な中、敢えての北京市訪問でしたが、実際の現場で現実を体験することの重要性を改めて認識する視察となりました。(視察報告はオフィシャルサイトにて掲載)

「スポーツ推進の環境づくり」について、一般質問を行いました。

平成26年第2回区議会定例会

1. 子どもの遊び場事業の拡充

【問題の背景】 スポーツは人生をより豊かにし、身体的・精神的な欲求を満たす、誰もが楽しめる世界共通の文化です。特に、子どもにとっては体力の向上や責任感、規律、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。成人や高齢者にとっても健康の保持増進や体力の向上、ストレス発散、そして生活習慣病の予防にも貢献します。

平成25年4月より施行された千代田区子どもの遊び場に関する基本条例を受け、昨年度は外濠公園グラウンドと和泉公園で、今年度からは東郷公園と小川広場フットサルコートにて、子どもが自由にボール遊び等できる「子どもの遊び場事業」が現在、区内4カ所で実施されています。将来的には小学校の学区単位8カ所での開催を考えているとは思いますが、子どもにも保護者にも評価が高いのであれば、もっとスピードを上げて横展開しなくてはなりません。将来的には子どもが自主性を持って身近なところで遊べる環境をつくらなくてはなりません。現時点では一刻も早く開催回数を増やすこと、また地域的にバランスよく開催できるよう場所を確保することが必要です。

【質問】

子どもが身近で自由にボール遊び等ができる子ども遊び場事業の将来像を問う。また、小学校の学区単位での早期開催及び、開催を週1回から2回へと拡充することを提案する。

【区（執行機関）の答弁】

区では、子どもが公園等でキャッチボールなどのボール遊びを気軽にできる環境がなくなっていることや、子どもの運動能力の低下への懸念などを背景とした、子どもの遊び場確保への強い要望を受け、区、地域、事業者など広範な団体が、外遊びの必要性、重要性について共通の認識を持ち、連携・協力して子どもの遊び場確保のために取り組むことを目指し、平成25年に子どもの遊び場に関する基本条例を制定した。この条例の理念に基づき、区内4カ所で週に1回子どもたちと一緒に遊んだり、安全な遊びの見守りを行ったりするプレーリーダーを配置し、ボール遊び等ができる時間を設定し、「子どもの遊び場事業」を実施している。

今後の「子どもの遊び場事業」については、直ちに実現することは厳しい状況だが、将来的には区内8つの小学校の各学区でバランスよく利用できるよう実施場所を確保することが理想と考えている。また、実施回数の増については、プレーリーダーの確保等の課題もあるが、可能な限りご提案いただいた週2回開催への拡充ができるよう努める。

2. 公園におけるスポーツ機能の確保

【問題の背景】 区内に点在する児童遊園は区民の貴重な共有財産であり、千代田区の子どもたちへ遊び場を提供するために整備されたものでした。先の予算委員会では、平成24年度の調査において、この区内25カ所中、子どもが使用している児童遊園は4カ所のみであり、ほとんどの児童遊園には誰もいなかったとの報告がありました。区民の貴重な空間が有効に活用されていないことが良くわかりました。

スポーツに必要な広さですが、例えばフットサル1面なら400㎡ぐらい必要ですが、ミニゲームな

ら200㎡もあれば十分です。バスケの3on3も200㎡以下、キャッチボールなら直線で20メートルあれば可能でしょう。例えば200㎡以上の児童遊園は25カ所中8カ所あります。一方、介護予防に役立つ健康遊具を設置するスペースも100から200㎡程度です。地域ニーズや広さ、立地条件を勘案し、児童遊園をサッカーやキャッチボール、健康向上など、機能に特化した公園へと再構築し有効利用してはいかがでしょうか。あわせて名称も、例えばサッカー広場やキャッチボール広場、バスケ広場など、わかりやすく変更します。介護予防公園も、例えば健康いきいき広場とし、親しみやすいアイコンのデザインもあわせて提案いたします。具体的にはいずみ、岩本町二丁目、五番町、飯田橋児童遊園などが検討に値すると思います。地域的にバランスよく配置することにより、誰もが気楽に立ち寄れる地域コミュニティの中核としての役割も期待できそうです。

【質問】

区民の貴重な空間でありながら有効利用されていない児童遊園の一部をサッカーやキャッチボール、または健康増進など、地域ニーズを踏まえ、スポーツ機能に特化した公園へと再構築し、有効利用を図ることを提案する。

【区（執行機関）の答弁】

スポーツの推進は本区における重要な施策であり、各種の世論調査でもほとんど強い要望があることも十分にわかっている。その為の場の確保として、有効に利用されてない児童遊園の一部を活用する提案や低未利用地財産の活用という提案については、その趣旨は十分に理解できる。もう一度児童遊園について抜本的に検討はするが、場所によっては特化という考え方は中々難しいこともご理解を頂きたい。特に近隣の住民の方々から、色々なご意見が出てくる。スポーツの場合には、種目によってはネットを張る、音の問題とか様々なご意見が出てくる事もある。お話の趣旨は十分踏まえながら、場所について実現できる方途を考えていきたいと思う。ただ、非常に難しい課題もあるという事は、ご理解を賜りたい。

3. 低未利用地・低未利用施設の有効利用

【問題の背景】 千代田区内には平成25年度末時点で小川広場や旧万世橋警察署跡地などの低未利用地が7カ所、旧今川中学校や旧千代田保健所などの低未利用施設を13カ所抱えています。中には全く未利用の物件もあり、スポーツの場の確保で苦勞している一方、多くの低未利用地が隣り合わせている現状に、縦割り行政とはいえ理解に苦しみます。

私は都心の貴重な空間は、わずかな時間たりとて遊ばせてはならないと考えます。未利用な期間は莫大な機会損失となります。将来、再開発を行う場合に既得権益化され、反対運動に利用される恐れもあるでしょう。しかし、開発の方向性が決まるまでの暫定利用と、前提条件を明確に打ち出し、区民が最も熱望しているスポーツの場として利用すべきです。その空間は、イベント開催会場や防災拠点としても有効活用でき、投資対効果はスポーツの推進だけに留まらないと考えます。

また、旧千代田区公会堂など、未利用施設8カ所の年間管理費は2,700万円にも及んでいます。速やかに老朽建築物は撤去し、維持管理



千代田コラム

アーツ千代田3331

旧千代田区立練成中学校を活用した文化芸術の拠点が、アーツ千代田3331です。2010年6月にオープンし、先ごろ開館4周年を迎えました。文化芸術に携わる様々な団体が入居し、活動しています。地上3階、地下1階の施設は、アーティストが主導・運営し、地域と協働で新しいアートの形をつくっています。アートギャラリーやオフィス、カフェなどが入居し、展覧会だけでなくワークショップなどの文化活動の拠点として、また、誰でも利用できるフリースペースとしても利用されています。

施設の名称である3331は、普段私たちが手締めを行う際に、3回・3回・3回・1回手を打つ、一本締めの手拍子の数を表しています。

明るく開放的な南側公園からのアプローチは、誰もが利用しやすい幅24mのオープンデッキとなっています。子どもから大人まで、千代田区民に限らず誰もが楽しめる公共性が特徴です。国際的な文化発信の聖地である秋葉原に、一流のアーティストやクリエイターから地域の子どもたちまでが集い、文化芸術に触れ、発信することができる素晴らしいこの空間を大切にしたいと思います。



費などの無駄を省き、一時的にでも空間が創出されれば有効活用のアイデアが広がることも期待できます。具体的な候補地としては、小川広場や区立猿楽町住宅跡地、旧今川中学校や旧永田町小学校などはいかがでしょうか。さらに、区内には麴町住宅や二番町住宅など、国有の未利用地が8カ所あります。わかっている面積だけでも6,460㎡にも及び、区内の児童遊園の合計に近い面積となります。粘り強く交渉を続けることも必要です。

【質問】

千代田区にある低未利用地には多くの可能性があります。方向性が決まるまでの暫定利用とした上で必要な環境整備を行い、スポーツの場として有効利用することを提案する。

【区（執行機関）の答弁】

低未利用地財産の活用ですが、特に旧学校用地をはじめ、それぞれの建物や土地に対して強い愛着を持つ近隣の方々が非常に多い。具体的な活用策を進めるのは、さまざまなハードルがある。

そして、暫定利用とはいえ、旧学校跡地等については、近隣の方々の思い、あるいは安全対策、生活環境面などの様々なご理解をいただきながら進めなくてはならない。仮に暫定利用が決まったとしても、どうしても既得権化してなかなか難しいという事もある。しかし、できるだけクリアしながら考えていきたい。ただ、大規模な学校跡地等は、学校の建てかえや、施設の建てかえによる仮校舎用地ということもあり、様々な跡地については、まず優先的に考えなことは、ぜひご理解を賜りたい。こうした状況の中で、内田議員からもお話があったように、何とかこの壁を破りたいという思いで、子どもの遊び場に関する基本条例をつくり、スポーツが中心となるが、子どもの外遊びへの道を開いて来た。

4. 小川広場フットサルコートの人工芝化

【問題の背景】 千代田区では、スポーツ推進基本計画にて、利用可能な区有地を活用して遊び場を確保することや、区立公園・児童遊園等について、子どもが可能な限り自由に遊べるよう配慮することが明確に謳われています。

小川広場のフットサルコートの整備は、現在も毎週1回「子どもの遊び場事業」で活用されています。そのグラウンドというのはコンクリートがむき出しであり、更に一部欠損箇所もあります。千代田区にとって、正直あり得ないような荒廃した状況です。

Sense

【質問】

このような環境で運動をやらせると、成長期の子ども達にとっては膝を痛める危険性があります。わずか500㎡です。早急に人工芝化を検討しないでしょうか？

【区（執行機関）の答弁】

ただいまご指摘のあった小川広場のフットサルコートの改修については、早急に実態を把握し、改善が図れるよう所管部に連絡し、早急に安全な運動ができる様図っていきたい。

Study

明治大学公共政策大学院 修士課程を修了しました。

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科を修了しました。

最優秀成績賞と優秀論文賞も頂き、充実した2年間を過ごすことができました。苦楽を共にした学友や先生との出会いに感謝しています。駿河台で学んだことや築いた人脈を、千代田区や東京都、更には日本の為に活かせるよう、尽くしていきたいと思っています。



働く街から、いきる街へ。

内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれ B型。
1984年国立有明高専建築学科を卒業、トステム株式会社（現LIXIL）入社。総合企画室主任、海外赴任を経て事業企画室長、商品企画室長となり、住宅建材など主力商品の経営戦略・商品戦略・業務改革及び開発プロジェクトに携わる。2011年より千代田区議会議員。2014年、明治大学公共政策大学院修了。東京都防災ボランティア。一級建築士。

●所属委員会

環境文教委員会
商工観光施策特別委員会

●所属団体

社団法人 東京建築士会
千代田区サッカー協会 会長
明治大学校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学大学院 都市政策フォーラム
NPO法人 神田学会
NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク

●内田直之事務所

〒101-0041 千代田区神田須田町1-30 スナミビル3F
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp